

京都教区時報

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
FAX
075-211-4345

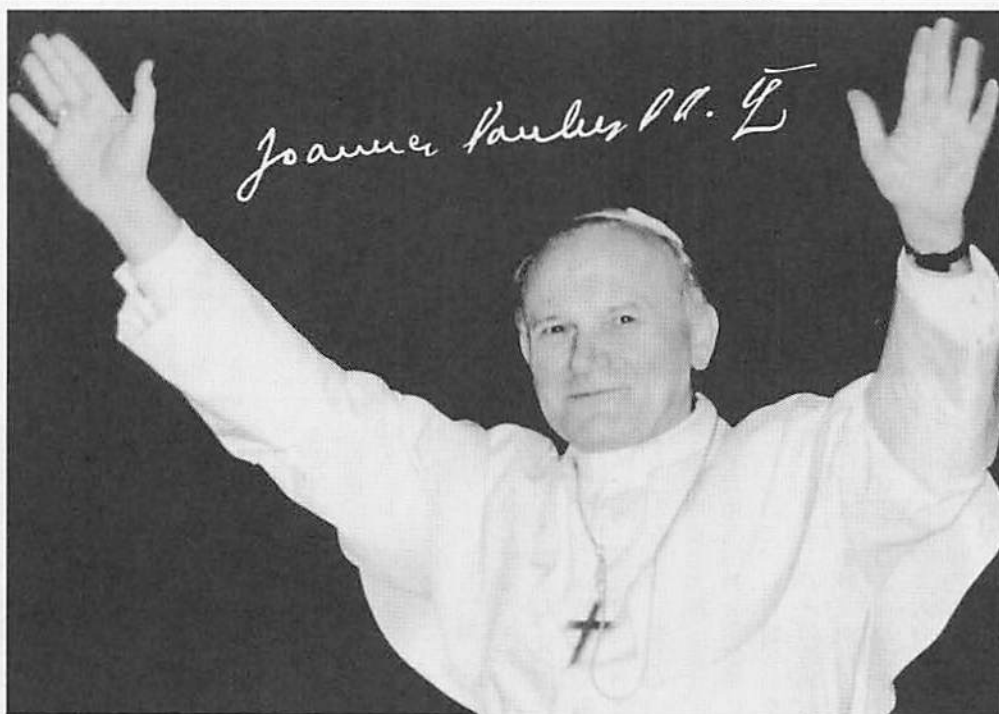
Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp>

2 頁 多国籍共同体に向かう事例 伏見教会

3 ~ 5 頁 2004年度会計報告

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジ
ナ」代表嶺崎(たけざき)裕子さ
んまでお申込みください。

TEL・FAX 0794-31-8601



教皇ヨハネ・パウロ二世
永遠の安息のためにお祈りいたします

御自分を「与える」「現存」

昔、教えをいただいた司祭がミ
サのことについて、次のように話
していたことを思い出した。

「イエスは死の前夜、あの小さ
なパンのうちに、十字架の死に終
わるご自分の全生涯を注ぎ込んで、
わたしたちに残した。だから、わ
たしたちは手ぶらでミサに出るわ
けにはいけません。それぞれの一週
間の重荷を引きずってミサに集ま
り、あのパンの上にのせる。こう
して、パンは祭壇の上で、キリス
トのからだ、復活者キリストのい
のちに変えられる。ミサとは、そ
ういうものである。」

ミサを通して復活者キリストが
共にいてくださること、さらに、
「あのパン」をいただくことがで
きるのです。この体験から、私た
ちはキリストの現存を知ることが
出来るのです。しかも、「現存」
は一度だけではなく、今もいつも
続いている「与える」営みなので
す。

(外崎 豊)

5
2005

多国籍共同体に向かう事例

伏見教会

中井 房子

私達の教会は京都市の南部、伏見区深草にあり殉教二十六聖人を偲ぶ巡礼の第2札所（伏見の殉教者、橋本親子）です。毎月第2日曜日午後2時にスペイン語のミサを捧げています。

スペイン、イタリア、メキシコ、ペルー、アメリカ、フィリピン、日本人等が京都市内や宇治市、遠くは滋賀県からも心の平安、神様への感謝、信仰の一致を求めて集まっています。

常は30人程、家族的な雰囲気ですがクリスマス、復活祭の時はおもつと多数の方で賑わいます。人々の入れ替わりはありますがスペイン語のミサが行われる様になって13年になり、場所は伏見教会をお借りしてはいますが立派に独立した「多国籍共同体」だと彼らは思っています。これからの彼等の目標はお借りしている伏見教会のお掃除（できる範囲ですが）や、大祝日の合同ミサの企画などが出来たらと思っています。それと「子供達の信仰教育をどの様に行うか？」です。

滞日フィリピン人の子供達は日曜学校にも参加し、ミサにも参列

して教会に馴染み親しんでいます「スペイン語のミサ」に求められる方々は早い朝のミサに参列するの

はなかなか難しいのが現状で、これは今後の課題になるでしょう。

私達、伏見教会の信者達の彼等との交流はまだまだで、一握りの人が模索している状態です。

まずは挨拶から始め、彼等のアイデンティティを理解し、お互いに譲歩し仲良くして行ければと願っています。他の地区の「多国籍共同体にむかう事例」にはほど遠い内容ですが、一步一步進んで行きたいと思っています。



ブロック紹介

奈良地区・南部ブロック

K・タロク

奈良南部ブロックは、大和高田、大和八木、西大和と御所の4教会から構成されています。各教会を移動する距離は短く、教会の所在地も駅から遠く離れたものはありませんのでブロックとして集まることは、さほど難しくありません。

現在、ブロック活動としては、担当チーム、ブロック会議などを中心に行われています。司祭団はチームとして働くことを優先し、容易にするために、4教会の宣教司牧を調整し、共同宣教司牧についての共通理解を進展させるために週1回奉獻生活者と共に集まることを決定しました。ブロック事務局長も参加します。司祭全員が大和高田教会司祭館に同居しているので、毎日情報の交換ができ、信徒と司祭との連絡も割合円滑にできます。司祭団の各小教区における主日ミサ及び平日ミサ、祭儀などは、4人の司祭が回り持ちの形で執り行っています。

ブロック会議は、8月と12月を除いて毎月の第4土曜日に行います。この会議によって、ブロック

の長期、短期目標と宣教司牧計画を作成します。そして、会議の議題は必ずその目標・計画に基づくものになっていて、会議ではそれを実践するために努めます。会議のメンバーは、担当チーム、各小教区の評議会役員と各ブロック活動を調整するグループ代表です。

このブロック活動は、それに伴って特に各小教区の特徴、雰囲気などを弱めているということがあります。ブロックレベルの活動は、担当チームの一人と各小教区から少なくとも一人の代表者から構成される「ブロック活動を調整するグループ」の指導によって行います。現在は、4つのグループ（子ども信仰教育、入門講座、難民・移住・移動者、典礼）があります。今年は「中高生の信仰養成・司牧」というグループを作る予定があります。このグループは、合同イベント（例えば子どものサマーキャンプ、聖木曜日ブロック晩餐のミサなど）を主催し、また各小教区内の活動を調整し、それを助けるために働きます。

小教区だけでなく、ブロックも共同体になることが目的です。今までそれに気づいていない信徒が多い様に感じられます。

2004年度カトリック京都司教区会計収支報告

いつも京都司教区のために、信徒の皆様からのお祈りや経済的援助を賜り、感謝申し上げます。また、各小教区・修道院・学校施設の各位からの、特に財政面でのご協力にも感謝申し上げます。2004年度のカトリック京都司教区の教区本部会計収支報告及び小教区会計収支報告をいたします。教区本部会計及び小教区会計（合算）の収支の内訳は、別表の通りですが、主な点についてご報告いたします。

〔小教区納付金支出（A）について〕

小教区納付金（A）として、教会維持献金とミサ聖祭献金との15%をお納め頂いていますが、年々減少して来ています。教区財政に対するご協力に対して、厚くお礼申し上げますとともに、小教区財政安定のためにも、より一層のご尽力をお願い致します。

〔小教区納付金支出（B）について〕

6年前に、教区の財政を改善するために、教区の信徒全員で司祭の人件費を分担して頂くことになりました。本年度も皆様に多大なご協力を頂き、感謝申し上げます。この方式を導入以来、逐次計算方法を改善して来ましたが、小教区による負担額の差を緩和するため、2005年度より新しい計算方式に変更いたしました。これまでの方式に比べ小教区により分担額に増減がありますが、変更の趣旨をご理解頂き、ご協力下さいます様お願い致します。

〔全般事項〕

- ①昨年度は、経常収入の大幅な減少により赤字決算となりましたが、本年度は、皆様のご協力により、司教座修築積立金として19,890千円を積立て、次期繰越金として7,232千円を計上することが出来ました。
- ②2004年度の収入のうち、建設分担金72,722千円は東舞鶴・富雄・八幡各教会の聖堂改修並びに河原町教会の都の聖母聖堂の新築に係わるもので、一方で、資産支出として、建設勘定・建物付属設備等がこれらにより増加しています。また一粒会収入が前年比約4百万円増の14,412千円となりました。一昨年9月の司教様の呼び掛けに応えられた結果と感謝しています。
- ③支出について見ますと、経常支出が前年度に比べ約5百万円増加しています。これは維持管理費や事務管理費は減少しましたが、教区事業活動費や人件費が増加したことによります。また、前年多額に上った墓苑整備費が今年度は大幅に減少しています。なお、今年度より「永代使用料収入」を「墓地使用料収入」と科目名称を変更しましたのでご承知おきください。

〔所轄庁への書類提出義務〕

宗教法人法及び租税特別措置法の定めにより、教区本部会計及び小教区会計の財産目録、貸借対照表、収支計算書を所轄庁である文化庁に、また、収支計算書を所轄税務署に提出しました。宗教法人に求められている正しい報告のために、皆様のより一層のご協力をお願い致します。

〔終わりに〕

最近、教区財政も随分落ち着いてきましたが、司祭、信徒の高齢化を考えると、将来に向けて決して楽観は出来ません。20歳以上で収入のある信徒の方は、収入の3%を目安として、小教区の財政安定のためにも維持献金の納入をお願い致します。

2005年4月

カトリック京都司教区

本部事務局 北村 善朗

京都司教区 2004年度 教区本部会計収支報告書

自2004年1月1日 至2004年12月31日

(単位: 千円)

科 目	実 績	科 目	実 績
I 経 常 支 出	214,859	I 経 常 収 入	298,793
1 福 音 宣 教 活 動 費	63,174	1 納 付 金 収 入	252,512
祭 儀 費	622	司 教 司 牧 納 付 金	2,872
教 育 養 成 費	9,366	司 祭 司 牧 納 付 金	9,124
諸 委 員 会 活 動 費	2,520	小 教 区 納 付 金 (A)	41,019
教 区 事 業 活 動 費	48,308	小 教 区 納 付 金 (B)	81,894
諸 活 動 団 体 補 助 金	530	小 教 区 納 付 金 (C)	36,404
会 議 費	1,322	小 教 区 納 付 金 (D)	1,772
図 書 費	506	福 音 宣 教 協 力 金	6,705
		建 設 分 担 金 収 入	72,722
2 寄 付 金 支 出	130		
		2 寄 付 金 収 入	34,455
3 特 定 献 金 支 出	11,826	一 般 寄 付 金 収 入	1,062
		収 益 部 門 収 入	26,700
4 人 件 費	127,147	そ の 他 の 寄 付 金	6,693
5 維 持 管 理 費	3,928	3 特 定 献 金 収 入	11,826
6 事 務 管 理 費	8,654		
II 墓 地 勘 定 支 出	5,287	II 墓 地 勘 定 収 入	4,544
墓 地 管 理 費	2,220	墓 地 使 用 料 収 入	1,850
墓 苑 整 備 費	3,067	墓 地 祭 儀 収 入	2,694
III 特 別 勘 定 支 出	25,098	III 特 別 勘 定 収 入	18,935
一 粒 会	685	一 粒 会	14,412
ア ジ ア 基 金	825	ア ジ ア 基 金	825
一 万 匹 の 蟻	3,231	一 万 匹 の 蟻	3,231
国 際 協 力 基 金	467	国 際 協 力 基 金	467
司 教 座 聖 堂 修 築 積 立 金	19,890		
IV 資 産 支 出	82,473	IV 資 産 運 用 収 入	12,667
土 地	0	預 金 利 息 収 入	11,167
建 設 勘 定	46,859	土 地 売 却	1,500
建 物 付 属	24,289		
構 築 物	476		
什 器 備 品	8,619		
車 輛	2,230		
V 予 備 費	0	V 雑 収 入	10
支 出 計	327,717	収 入 計	334,949
次 期 繰 越 金	7,232	前 期 繰 越 金	0
支 出 合 計	334,949	収 入 合 計	334,949

京都司教区 2004年度 小教区会計収支報告書

自2004年 1 月 1 日 至2004年12月31日

(単位:千円)

科 目	実 績	科 目	実 績
経 常 支 出 の 部		経 常 収 入 の 部	
(宣 教 司 牧 費)	81,107	(信 徒 通 常 献 金)	259,186
祭 儀 費	16,388	教 会 維 持 献 金	200,620
司 牧 費	2,588	ミ サ 聖 祭 献 金	43,039
委 員 会 活 動 費	6,446	大 祝 日 (特 別) 献 金	15,527
宣 教 広 報 費	3,554	(特 定 献 金)	18,871
宣 教 育 成 費	1,184	(特 別 献 金)	124,456
養 成 費	1,675	祭 式 献 金	24,442
青 少 年 育 成 費	3,642	一 般 特 別 献 金	60,916
新 聞 図 書 費	2,024	営 繕 献 金	15,269
会 議 費	800	建 設 献 金	12,883
行 事 費	10,002	特 別 事 業 献 金	10,946
慶 弔 費	4,291	(墓 地 ・ 納 骨 堂 等 収 入)	5,483
援 助 費	16,296	使 用 料 収 入	2,520
諸 団 体 分 担 費	12,217	墓 地 祭 儀 収 入	2,963
(特 定 献 金 支 出)	19,049	(補 助 活 動 収 入)	1,440
(納 付 金 支 出)	214,110	(雑 収 入)	399
教 区 納 付 金 支 出 (A)	36,788	(資 金 運 用 収 入)	9,047
教 区 納 付 金 支 出 (B)	73,391	預 金 利 息 収 入	8,990
教 区 納 付 金 支 出 (C)	28,793	受 取 配 当 収 入	49
教 区 納 付 金 支 出 (D)	1,695	信 託 利 子 収 入	8
修 道 会 納 付 金 支 出	720		
建 設 分 担 金 支 出	72,723		
(運 営 管 理 費)	100,984		
(補 助 活 動 支 出)	607		
(墓 地 ・ 納 骨 堂 管 理 支 出)	1,084		
経 常 支 出 合 計	416,941	経 常 収 入 合 計	418,882
財 務 支 出 の 部		財 務 収 入 の 部	
(固 定 資 産 支 出)	92,890	(固 定 資 産 収 入)	96,988
建 物 附 属 設 備 購 入 支 出	6,343	特 別 目 的 預 金 取 崩 収 入	96,988
構 築 物 購 入 支 出	2,663		
祭 儀 備 品 購 入 支 出	6,472		
器 具 備 品 購 入 支 出	2,042		
墓 地 使 用 権 取 得 支 出	220		
特 別 目 的 預 金 積 立 支 出	75,150		
(そ の 他 の 財 務 支 出)	11,489	(そ の 他 の 財 務 収 入)	9,416
(資 金 調 整 勘 定)	△1,234	(資 金 調 整 勘 定)	△1,134
財 務 支 出 合 計	103,145	財 務 収 入 合 計	105,270
支 出 合 計	520,086	収 入 合 計	524,152
次 期 繰 越 金	209,994	前 期 繰 越 金	205,928
合 計	730,080	合 計	730,080

福音センター特別講座



福音センターニュース

「キリストとの親しい交わりに呼ばれて」

—「聖体の年」特別講座—

インドのマザーテレサは語っています。

「私は一日に二度、聖体拝領をします。一度はミサの中で、もう一度は貧しい人々の中におられるキリストとの出会いの中で…」と。

湧き出る泉のようにマザーにいのちを与えた聖体。

昨年10月より始まった「聖体の年」をよりよく生きるために、福音センターでは以下のような特別講座を企画しました。京都教区の昨年来のテーマである「日常からミサを生きる」とあわせ、わたしたちの信仰生活のなかで、どのようにミサをあるいは聖体を生きればよいのかを学び、意識を深めあう機会となりますように。皆様の参加をお待ちしています。

場 所：河原町会館8階

時 間：各回木曜日 午後1時半～3時（講話の後に聖体の前で祈ります…希望者のみ）

参加費：3,000円 （6回シリーズ）

プログラム：

- 1、聖体の制定…聖書による歴史的背景の確認（6月23日） 担当 奥村 豊師
- 2、交わりとしての聖体（7月7日） 担当 奥村 豊師
- 3、現存としての聖体（7月21日） 担当 一場 修師
- 4、「いけにえ」としての聖体（9月8日） 担当 北村善朗師
- 5、教会と聖体（Ⅰ）（9月22日） 担当 一場 修師
- 6、教会と聖体（Ⅱ）（10月6日） 担当 北村善朗師



締め切り：6月10日（金）までに、郵便振替口座（00920-4-161844）

カトリック福音センター養成コース宛にお振込みください。

《問い合わせ先》

京都カトリック福音センター 〒604-8006 京都市中京区河原町通り三条上ル カトリック会館

Tel 075-229-6800 Fax 075-256-0090 E-mail: fukuin@kyoto.catholic.jp

エウカリスチアは教会をつくります

聖体を拝領する人々は、キリストにより緊密に結ばれます。それゆえに、キリストはすべての信者を教会というただ一つのからだに結びつけます。聖体拝領は、すでに洗礼によって実現された教会との合体を新たにし、強めます。洗礼によって、わたしたちはただ一つのからだを形づくるように召されました。エウカリスチアはこの招きを実現します。「わたしたちが神を賛美する賛美の杯は、キリストの血にあずかることではないか。パンは一つだから、わたしたちは大勢でも一つのからだです。皆が一つのパンを分けて食べるからです」(1コリント 10・16-17)

『カトリック教会のカテキズム』No.1396より

『カトリック教会のカテキズム』にある上記の文章で、「それゆえに、キリストはすべての信者を教会というただ一つのからだに結びつけます」という箇所について考えてみたいと思います。

ここの原文を文字どおりに訳すると、「まさにそれゆえ、キリストは、聖体拝領をする人々を、すべての信者に結びつけ、ひとつのからだとされます。それが教会です」となります。

つまりキリストは、聖体拝領によってさらに深くご自分と結ばれたわたしたちを、まさにそのことによって、世界中の信者に結びつけられます。わたしたちは聖体拝領のたびに、すべての信者とひとつになるのです。病気のために教会に行けない人、迫害のために聖体拝領のできない人、喜んでいる人、苦しんでいる人、あらゆる人たちが、聖体拝領をするわたしたちと結ばれて教会となります。

「わたし」が聖体をうけると、世界中の信者と結ばれるという、広大無辺の聖体拝領＝コミュニケーションを、わたしは意識しているでしょうか。世界に広がるあらゆる苦しみと喜びを、わたしは聖体とともに受け取っているのでしょうか。

聖体拝領も、聖体礼拝も、イエス・キリストとわたしとの個人的な関わりだけではなく、洗礼によってキリストのからだに組み入れられたすべての人々との関わりに入るという大きな交わりを意味します。

ですから、キリスト者の一致は根本的にエウカリスチアの一致です。好きな人、嫌いな人、意見の合う人、合わない人、あらゆる人と、わたしはキリストのからだを通じて結ばれています。

現在京都教区で進められている共同宣教司牧で、しばしば語られる「交わりの教会」も、その基にあるのはエウカリスチアの交わりです。

「聖体の年」を機に聖体についての理解を深め、共同宣教司牧を支える「交わり」について黙想を続けたいものです。

◆お詫びと訂正

329号(4月号)7ページ福音センターニュース「わたしの教会の福音宣教」の筆者名を「恵美由紀子」としましたが、「恵美由起子」の間違いでした。お詫びして訂正いたします。

お知らせ

教区委員会から

◆聖書委員会◆聖書深読21日(土) 10時 奥村一郎師 河原町会館6階 費用2500円(昼食代を含む)、持参品 聖書・筆記用具・ノート(お申し込みは3日前までに) ◆聖書講座シリーズ「マタイ福音書を読む」神の国のメッセー ジ・インマヌエルである神ー11・12日村上透磨師、18・19日昌川信雄師、25・26日北村善朗師 ◆典礼委員会◆教会の祈りと聖体 賛美式・主日のミサ 第1日曜日 17時半 河原町教会

地区協議会から

◆奈良カトリック協議会◆正義と平和奈良協議会 障害者問題22日(日) 14時 登美ヶ丘教会 発題 村田優氏 ◆滋賀カトリック協議会◆安土セ ミナリヨ記念の集い29日(日) ミ サ10時半 安土セミナリヨ跡公園 隣接の集会所 講演とコンサート 13時 文芸セミナリヨ館(講演テーマ「宣教師から見た安土」 講師 日本二十八年人記念館館長レンゾ・デ・ルカ師 バイオルガン演奏・

修道会から

◆ウィチタ聖ヨゼフ修道会◆「召命を祈る一日」22日(日) 9時半 受付 15時ミサ 一場修師 場所 本部修道院 対象 未婚の女性 会費5000円(昼食代) 申込電話 075(462) 0754 ◆聖ドミニコ女子修道会◆「ロザリオを共に祈る会」20日(金) 10時半 ◆みことばを聴こう! 「私たちの平和、キリスト」7日(土) 受付9時半 講師 一場修師 対象 青年男女 会費5000円 申込電話 075(231) 2017

教育関係施設から

◆聖母教育文化センター◆そこが知りたい! キリスト教 火曜日 10日・31日 講師 中原道夫 ◆月曜聖書講座9日、23日19時 講師 安藤敬子 ◆金曜聖書講座6日、13日、20日、27日9時半 講師 安藤敬子 ◆いずれも問合せ075(643) 2320

諸施設・諸活動から

◆JOC◆働いている青年の集い。 集会場所 京都働く人の家(九条

こんにちはシスター

ノートルダム教育修道女会
鹿ヶ谷修道院(その二)



高生に表千家茶道を指導している。Srジョイスは、共同体奉仕に従事。器用な手先と清潔好きで周りが整えられていく。週1度ノートルダム学院小学校受付担当。Srアンミリアムは、日本地区アラカイブ(修道会記録保存文書の整理と保存)、および日本地区ホームベージ(日本語版)担当。Srキャレインは、共同体奉仕に従事。京都小さな生命を守る母親の会、広島原爆被爆者、孤老老人との関わりを大切にしている。Srカルメラは、ノートルダム学院小学校総合学習を担当。創意工夫を凝らした授業は高く評価されている。永年にわたる長島愛生園訪問、フレンドリー共同作業所訪問など社会的弱者の立場の人々への眼差しは優しい。

「人が変われば世界は変わる」人間の持っている可能性の開花を目指す教育が、混迷する社会の中で、福音の光のうちに行為れることを念じ、祈りと犠牲、働きを捧げる私たちである。

(2月時点記)



- 教会前)、滋賀働く人の家(大津教会裏)。連絡先090(8207)1831
- ◆おてんとさんの会▼例会第3金曜日13時 西院教会
- ◆京都カトリック混声合唱団▼練習日 8日(日)、29日(日) 14時、28日(土) 19時 河原町会館6階
- ◆京都カナの会▼結婚相談室・例会1日(日)
- ◆京都キリシタン研究会▼都の聖母奉賛ミサ8日(日) 14時 將軍塚▼定例会は休み
- ◆コロチエレステ▼練習日第2、4木曜日
- ◆子羊会▼黙想会22日(日) 竜安寺聖ヨゼフ修道院 指導 マクドナル師
- ◆在世フランシスコ会京都兄弟会▼集会14日(土) 13時半 フランシスコの家
- ◆聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会▼河原町協議会8日(日)▼中央理事會▼22日(日) いずれも河原町教会
- ◆カトリック聴覚障害者の会京都グループ▼手話学習会12日(木) 13時▼手話ミサ・懇親会20日(金) 11時 河原町会館
- ◆二金会▼13日(金) 西陣教会
- ◆機みその会▼26日(木) 19時半 九条教会ホール
- ◆レジオ・マリエ15日(日) 河原町会館6階ホール
- ◆心のともしび5月番組案内
- ▼テレビ KBS京都テレビ 毎週日曜日 朝6時から放送
- ▼ラジオ KBS京都ラジオ
- *当番組はラジオ(民放)における最長寿記録(1957年から)を更新中*
- 13日 ハット神父の話
- 善意の人は「御心になう人」それは神様と人々を愛する人。
- 問合せ075(211)9341
- ◆「二万匹の蟻」運動基金報告 累計 43、931、549円 (3月16日現在)
- ◆教会所在地表示の変更(4月から)▼宇津教会〒601-0265 京都市右京区京北中地町横谷口15-11▼山国教会〒601-0231 京都市右京区京北塔町宮ノ上13-2

携帯電話で

http://www.kyoto.catholic.jp/keiai/に接続すると、教

区内の教会所在地、電話・ファッ

クス、ミサ時間が分かります。



良書紹介

ジャン・パニエ

『ひとつとなるために』

—生命と破れと光—

小塩トシコ・長沢道子訳(日基出版) 原文は「ザ・ブローケンボディ」(砕かれた身体)

著者 ジャン・パニエは、知的障害者の共同体ラルシュ(箱船)の意)の創立者です。今この共同体は、全世界に九十五以上を数えます。その精神を最も良く描いた(と言ふより詩った)この書は、読む者を魅了します。私はかねがね、神さまの心を詩の様に語りたいと願っているのだけれど、パニエのこの書を手にとった時の喜びは隠せませんでした。

この詩(?)の最も印象的な言葉が、聖書と典礼で紹介されたことがありました。この書全体を紹介するより、あの一節をここでもう一度、思い出すことにより、その言葉に感動された一人ひとりがこの書を味わい読まれることを願っています。

「裂かれたパンはイエスの裂かれた身体であり、疎外され、傷つけられた貧しい者たちへ私たちが向かわせます。彼らの心に、また彼らを通して私たちの心が、時には痛みを伴う仕方

も養いを受けるのです。」

コンムニオを、聖体拝領と訳します。沢田和夫師はこれを「親しく」一つになる交わり」と記しておられる様にお聞きしましたが、キリストと「親しく」一つになる交わりは、実にあのミサの中の聖体拝領において実現されているのです。しかしその交わりは、砕かれた(破れた)イエスの身体と、砕かれた(破れた)身体である私たちが、一つになることを表しています。それを体感することにこそ、聖体拝領(コンムニオン)の意味があるのです。

『ラルシュの心』

—小さい者と共に神に生かされる日々— (二麦出版社)

ここに「ラルシュ共同体」の精神が書かれています。

副題は小さい者と共に生かされる日々、とありますが、「小さい者」という言葉は、誤解を招きやすい言葉で、京都教区ビジョン発表以来ずっと気にして来たものです。パニエは、これを「傷つけられ易さ」を身に帯びている人々と考えているように思えます。

大塚司教の

5月のスケジュール

- 1日(日) 京都南部・南ブロック
A司教訪問(伏見)
右近こども祭りミサ
(大和棒原) 10時
- 5日(木) 三重・北勢ブロック司
教訪問(亀山)
- 8日(日) 中央協出版審議会
中央協部長会
- 11日(水) 中央協常任司教委員会
京都南部地区合同堅信
式(河原町) 14時
- 12日(木) 京都学園・京都南学園
学法律事会14時
- 15日(日) 司教顧問会・責任役員
会10時
- 18日(水) 東京カトリック神学院
宣教学講義
- 20日(金) 村上眞理雄師金祝感謝
ミサ(河原町) 14時
- 21日(土) 滋賀学法律事会14時
社会福祉法人カリタス
会理事会14時
- 23日(月) 共同宣教科牧推進チ
ム事務局会議14時
- 24日(火) 司祭全体集会10時半
司祭評議会15時半
- 25日(水) メリノール女子学院理
事会13時半
- 26日(木) 安土セミナリオ顕彰ミ
サ10時半

30日(月)・31日(火) 青少年委
員会研修会

村上眞理雄師金祝感謝ミサ

4月3日が延期になりましたが、
5月21日(土) 14時から河原町
教会で行われます。

◆帰天

ディフリ師(メリノール宣教会・
希望の家創立者)

3月27日ニューヨークで帰天され
ました。81歳でした。永遠の安息
のためにお祈りください

2005年度司祭の異動

(3月28日付のうち、小教
区関連新任のみ)

エルメル・ディマルクト師
京都南部地区北ブロック協力司
祭(9月より担当司祭)

マルコ・アントニオ・ナバロ・
ロレト師

奈良地区北部ブロック担当司祭

マルセル・フォールテン師

京都北部地区舞鶴ブロック担当
司祭

三輪周平師

京都北部地区宮津ブロック担当
司祭

京都北部地区長

ネットワークミーティング

宮地周吾郎

2月11日、12日の2日間にわ
たって奈良のカトリック野外礼
拝センターでネットワークミー
ティング(NWM)が行われま
した。今回は初参加でスタッフ
という大役を任されることにな
りましたが、自分なりによくが
んばれたと思います。約70名の
参加者にも恵まれ、和やかな雰
囲気のなかで分かち合い、食事、
交流会、ミサなどができました。
そして個人的にもとても楽しめ
た2日間でした。以前から親交
のあった福岡の青年と再会する
ことができたし、全国の青年の
あふれるパワーを肌で感じるこ
とができました。少し交流会で
はしゃぎすぎたのは反省点です
が。また、スタッフとしてこの
NWMを創った一員になった
のはとても誇らしいです。知り
合って間もない私を暖かく迎え
入れてくれて、感謝の気持ちで
いっぱいです。このNWMでか
けがえのないものをいっぱいも
らうことができました。ここで
得たお恵みをこれからの生活に
活かしていきたいです。

カトリック青年連絡協議会

有地実希

ネットワークミーティングに
引き続き第8回目を迎えたカト
リック青年連絡協議会が行われ
ました。北は北海道、南は鹿児
島、様々な教区から来た青年・
司祭・修道者が20数名ほど出席
しました。NWMは年に2回の
頻度で開催され、教会での青年
活動に携わる人々が全国からそ
の時ごとの開催地に集い、交流
し、情報交換や分かち合いなど
を行っています。協議会では、
これからもNWM賛同教区及び
参加者を増やしていく方針をと
り、未賛同教区にどのように働
きかけていくかを協議しました。
徐々に増えつつある参加者に対
応すべく、どのようにキャパを
広げていくかも考えていき、広
報の方法も引き続き検討してい
く予定です。「あっちこっちミ
サ」の企画など、全国規模のプ
ロジェクトチームにも、後援と
して関わっていきます。

今回のNWM・青年連絡協議
会は、9月に北海道の石狩市に
て開催されます。

青年センターあんでな